

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

令和7年度 伊勢志摩リハビリテーション専門学校 理学療法学科

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数						非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	学科長	専任教員	計	基準数	うち	助手			
					理学療法士または作業療法士数				
理学療法学科	1人	5人	6人	6人	6人	0人	50人	13.3人	
計	1人	5人	6人	6人	6人	0人	50人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
<input type="radio"/>	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
<input type="radio"/>	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
<input type="radio"/>	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
<input checked="" type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	西山 浩哉	兼任
		医療倫理論	8	矢野 孝	兼任
		健康科学	15	翠川 裕	兼任
		統計学	15	林 修平	専任
		情報科学	15	山本 剛生	専任
		保健体育	23	押尾 悦隆	兼任
		英語	15	後藤 知夏	兼任
		コミュニケーションと社会参加	15	枝光 悠・他	兼任
		スタディスキル	23	山本 剛生・他	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	60	櫻本 新	兼任
		機能解剖学（Ⅰ）	15	沖 和恵	専任
		機能解剖学（Ⅱ）	15	熊谷 旬一郎	専任
		機能解剖学（Ⅲ）	15	林 修平	専任
		体表解剖学（Ⅰ）	23	山口 倫直	専任
		体表解剖学（Ⅱ）	23	山口 倫直	専任
		生理学（Ⅰ）	60	櫻本 新	兼任
		生理学（Ⅱ）	15	大川 真清・他	兼任
		運動学	60	熊谷 旬一郎・他	専任
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	臨床心理学	15	西山 浩哉	兼任
		運動発達学	15	林 修平	専任
		医学医療概論	15	大形 弘樹	兼任
		整形外科学	30	信原 理生	兼任
		総合内科学	60	吉岡 久美・他	兼任
		精神疾患とリハビリテーション	8	八木 拓也	兼任
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	社会福祉学	15	森 美由紀・他	兼任
		多職種連携論	23	沖 和恵・他	専任
		リハビリテーション学	15	森 優太	兼任
障がい者スポーツ論		8	大川 進也	兼任	
保健医療福祉制度論		15	寺尾 幸恵	兼任	
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	15	山口 倫直	専任
		キャリアアップセミナー	128	熊谷 旬一郎・他	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	大形 弘樹	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学（Ⅰ）	15	沖 和恵	専任
		理学療法評価学（Ⅱ）	15	沖 和恵	専任
		検査・測定法（Ⅰ）	60	山本 剛生	専任

専門分野	理学療法評価学	検査・測定法（Ⅱ）	30	沖 和恵	専任
		画像評価法	15	熊谷 旬一郎	専任
	理学療法治療学	運動療法学	15	杉浦 令人	兼任
		物理療法学	23	林 修平	専任
		日常生活活動学	23	松枝 佑典	専任
		義肢装具学	45	山村 太一・他	兼任
		骨関節障害理学療法学	45	玉木 孝人・他	兼任
		神経障害理学療法学	45	森井 慎一郎・他	兼任
		内部障害理学療法学	30	岡田 恭子	兼任
		OSCE	53	岩崎 武史	兼任
		スポーツ理学療法学	15	松本 光司	兼任
	地域理学療法学	地域理学療法	15	坂口 隆一	兼任
		生活環境論	15	松枝 佑典	専任
	臨床実習	見学実習	23	林 修平	専任
		評価実習	113	林 修平	専任
総合臨床実習		315	林 修平	専任	

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習 (医療提供施設)	2年	コミュニケーションと社会参加	1年
		多職種連携論	2年
		理学療法評価学 (I)	2年
		検査・測定法 (I)	2年
		運動療法学	2年
		物理療法学	2年
		日常生活活動学	2年
評価実習 (通所リハビリテーション)	2年	理学療法評価学 (I)	2年
		検査・測定法 (I)	2年
		運動療法学	2年
		物理療法学	2年
		日常生活活動学	2年
評価実習 (医療提供施設、介護老人保健施設、 通所リハビリテーションなど)	3年	キャリアアップセミナー	3年
		理学療法評価学 (I)	2年
		理学療法評価学 (II)	3年
		検査・測定法 (I)	2年
		検査・測定法 (II)	3年
		画像評価法	3年
		運動療法学	2年
		物理療法学	2年
		日常生活活動学	2年
		義肢装具学	3年
		骨関節障害理学療法学	3年
		神経障害理学療法学	3年
		内部障害理学療法学	3年
		OSCE	3年
スポーツ理学療法学	3年		

<p style="text-align: center;">総合実習 (医療提供施設、介護老人保健施設、 通所リハビリテーションなど)</p>	4年	キャリアアップセミナー	3年
		理学療法評価学（Ⅰ）	2年
		理学療法評価学（Ⅱ）	3年
		検査・測定法（Ⅰ）	2年
		検査・測定法（Ⅱ）	3年
		画像評価法	3年
		運動療法学	2年
		物理療法学	2年
		日常生活活動学	2年
		義肢装具学	3年
		骨関節障害理学療法学	3年
		神経障害理学療法学	3年
		内部障害理学療法学	3年
		OSCE	3年
スポーツ理学療法学	3年		

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
○	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

● 基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・自己評価委員会
委員名（委員長）	後藤 知夏
組織の開催頻度	1年に1回
組織の取り組み内容	・自己点検及び自己評価の実施
	・第三者評価委員による評価と提言
	・授業評価アンケートの実施及び分析、職員間での共有
	・第三者による学校評価（リハビリテーション教育評価機構）の準備
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（ http://www.kyoeigakuen.ac.jp ）

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

● 基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	カリキュラム編成会議
	委員構成等	事務局長・学科長・カリキュラム担当
	改善の仕組みの実際	改善内容については、教務会議などを通して全職員へ周知を図り、改善に努めている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学内で行った自己評価結果に基づき、学校運営・教育活動・学生支援などの評価項目について意見・提案・改善策等を評価委員に求める。検証結果を踏まえ、校長を中心に学校運営の改善を図る。
--